

平成29年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園中学校・高等学校】

1 めざす学校像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期的目標

- 1 アッシステンツァを実践する（生徒の主体性を育成する）
 - ① キリスト教精神に基づく教育活動の実践
 - ② 教職員対象のカトリック教育
 - ③ 祈りの習慣付け
 - ④ 保護者の啓発
- 2 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する
 - ① 危機管理及び防災備蓄体制の確立
 - ② 実地訓練の充実
 - ③ 安全管理体制の公開及び発信
- 3 『「良心的な人間、よき社会人」を育成する教職員』を育成する
 - ① 社会人教育の実践
 - ② 社会貢献活動の展開
 - ③ 教育活動従事者としての意識と技術の向上
- 4 中高改革プロジェクトを推進する
 - ① 「2020」に向う体制づくり
 - ② 中高改革プロジェクトの推進
- 5 自然に挨拶が交わせる学園にする
 - ① 教職員間のコミュニケーション円滑化
 - ② 園児・児童・生徒、保護者への挨拶の励行
 - ③ お客様、業者への挨拶の励行

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

ア. 自己評価アンケート結果と分析	イ. 学校関係者評価委員会からの意見
<p><評価が相対的に高かった項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○清掃が行き届いている ○緊急時の情報伝達が適切 ○学習環境の面で安全である ○施設設備の安全管理が行き届いている ○建学の精神に共感できる <p>(すべて満足度83%以上)</p> <p><評価が相対的に低かった項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育が十分である ○幼小中高の連携が取れている ○学校の授業で十分な学力が身に付く ○家庭での学習が十分行われている 	<p>学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会（保護者）・各学校種管理職・評議員（学識経験者）により構成されている。平成29年度学校評価に関する検討は平成30年5月10日（木）に行われた。</p> <p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育内容について 学力向上の為の教育活動の進め方についてさらなる改善が求められるのではないかと。保護者の協力も得ながら、教育目標の再確認を行うべきである。 ○学校の雰囲気について 教員も生徒も大変穏やかで居心地の良い校風である。この校風を活かし、生徒の学力を向上させられるよう頑張ってください。 ○教員指導力について 指導力がやや不足していると思われる教員がいるとの指摘があるため、教員指導力の底上げを行う必要がある。 ○アンケート回収率について 回収率が昨年度より上がっている点を評価したい。一方で、より多くの保護者の声を集められるよう、回収への意識をさらに高める必要がある。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 アッシステンツァを育成する 育成する 生徒の主体性を	アッシステンツァを充実させる	ア) 各職員会議前の全体研修や経験年数別等のグループ研修を実施する イ) 祈りを励行する ウ) 保護者対象の勉強会を企画運営する	設問「学校は建学の精神および教育理念に沿った教育を行っている」のA・B評価が80%以上。 設問「建学の精神および教育理念に共感できる」のA・B評価が80%以上。 設問「保護者に対して生活指導の方針の説明をわかりやすく行っている」のA・B評価が80%以上。	ア) A・B評価 77.2%。職員会議の冒頭でドン・ボスコの教育に関わる話を行ったが、聞く側にとって具体的な行動の変化をおこすものとなっているか疑問である。(△) イ) A・B評価 83.5%。祈りは丁寧に行われている。(○) ウ) A・B評価 54.3%。学校説明会などの参加者には学園の精神の説明を丁寧に行った。在校生保護者対象の勉強会は計画段階である。(×)
2 園児・児童・生徒の安全」管理を徹底	教員の危機管理意識を向上させ、安心、安全な教育環境をつくる	ア) 机上、ロッカー等の職場環境の整理整頓をする イ) SNS使用、防災、防犯、薬物乱用防止等の講座を実施する ウ) 多角的な判断を元に生徒を見守る	設問「学校の施設・設備は安全管理が行き届いている」のA・B評価が80%以上。 設問「生活指導により、基本的な生活習慣が身に付いている」のA・B評価が80%以上。 設問「教職員は、保護者の相談に適切に対応している」のA・B評価が80%以上。	ア) A・B評価 84.3%。机上の整理整頓は教員によって異なったため、組織的な実行が必要である。(○) イ) A・B評価 67.7%。SNS使用、防犯、薬物乱用防止に向けた指導は実生活でも生かされている。問題事象が起こった時も早期対応ができ、大事に発展することがなかった。(×) ウ) A・B評価 71.7%。生徒指導上の問題事象への対応は、保護者とも情報共有しながら進めた。が災害時の対応についてはそれができていない。(◎)
3 『良心的な人間、よき社会人』を育成	教員はそれぞれにプロの集団の一員であることを自覚し、その向上を常とする	ア) 授業力、担任力向上を目指した研修、人権研修、マナー研修等を実施する イ) 報告・連絡・相談を丁寧に実施する ウ) 礼儀、マナー、身だしなみ等についての指導を統一する	設問「教員は十分な指導力を有している」のA・B評価が80%以上。 設問「教職員は社会人としての良識をわきまえた言動を実践している」のA・B評価が80%以上。 設問「生活指導の方針は適切である」のA・B評価が80%以上。	ア) A・B評価 58.9%。研修によって、教育内容やその方向性が適切であるのかを検討することができた。指導力そのものの向上はまだ十分とは言えない。(×) イ) A・B評価 68.0%。全体としては、各部署、学年からの報告、連絡、相談のもとで動くことができたが、まだ組織的な動きとは言えない。(×) ウ) A・B評価 67.7%。生活指導は全教員が同じ目標を共有していないところ、指導のばらつきや温度差がある。(×)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
4 中高改革プロジェクトを推進する	中高改革プロジェクトの実行	ア)「主体的に考え、行動し、学ぶ生徒」の育成を目指す イ) 兄妹校間の連携強化（教科間の教員交流、授業見学実施） ウ) 生徒と園児、児童との交流の場を検討実施する	設問「学校の教育目標について満足している」のA・B評価が80%以上。 設問「教員間での連携が十分に図られている」のA・B評価が80%以上。 設問「幼小中高の連携が取れている」のA・B評価が80%以上。	ア) A・B評価 62.2%。学校生活に困難をもつ生徒またその保護者との関係づくりに難しさが見られた。(×) イ) A・B評価 59.8%。教科主任、部活動担当者を窓口に少しずつ大阪星光学院の教員との接触を持ち始めることができたが、よりいっそうの連携が必要である。(×) ウ) A・B評価 45.2%。「はぐくみの園 城星学園」の設置をはじめ、様々な投げかけによって、内部進学者増は実現した。(×)
5 自然に挨拶が交わせる学園にする	組織的な縦横の繋がりを強化する	ア) 教職員間で校種を越えて挨拶をする イ) 生徒に対し、教員から挨拶を励行する ウ) 来校者に対し、教員、生徒共に挨拶を励行する	設問「教職員は気持ちの良い挨拶を行っている」のA・B評価が80%以上。	A・B評価 82.8%。 ア) 挨拶の声が自然に聞こえるようになった。(○) イ) 教員から生徒への挨拶や声かけは聞こえるようになった。(○) ウ) 来校者に対しては意識的に丁寧な対応が行われている。(○)